

岩手県野田村の支援活動報告（2011年6月4日）

5月に誕生した「チーム・オール・弘前」の活動も、無事に一か月が過ぎ、安定した軌道になってきました。平日に活動していた5月と違い、6月からは土曜日と水曜日の交互の活動になり、6月最初の活動は、初の土曜日になりました。

この日の参加者は、学生19名、教員2名、市民13名の計34名（うち男性19名、女性15名）と、土曜日の運行にも関わらず市民の参加が少ない編成となりました。それまでに比べ、初参加者が多く見られました。事務局を担当してくれた齋藤君と南部君も初めての事務局で、前半は緊張からか、しどろもどろでした。若者よ、「どんまい」です。

車内では、事務局の紹介の後、5月31日に受賞した弘前大学表彰に関して、人文学部ボランティアセンターを代表して私（李）から、ご報告と感謝の気持ちを伝えました。本当に市民の皆さん、学生諸君、教員仲間、そして野田村の皆様、そして支援して下さった弘前市、市民団体の皆様のご協力の賜物です。この場をお借りして心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

その後、弘前大学ボランティアセンター宛てに届いた、野田村の被災者からのお手紙を市民参加者の阿保さんが代読してくれました。被災者からの感謝の言葉に、みんなの心も温かくなりました。感謝、感謝の気持ちでいっぱい、清々しい朝となりました。

恒例の自己紹介とオリエンテーション、「幸せ運べるように」の合唱、そしてこの日は朝からみんなのテンションが高く、市民参加者の藤田さんの「りんごの歌」の熱唱があり、あっという間に野田村に到着しました。到着時間はいつもと同様、9時丁度でした。

この日は、「個人宅の庭の瓦礫撤去」、「個人宅の側溝の泥上げ」で10人のグループと5人のグループが各2班、そして4人のグループと、全部で5班に分かれて活動することになり、学生事務局2名とこれまでの経験者の学生3名が班長として指揮を執るこ



休憩所での集合写真



弘前大学表彰状



側溝の泥上げの様子（市民団長の神さんです）



隣で作業していた班の様子（桜庭さん宅）

とになりました。

私が入った個人宅の側溝の泥上げ班は、野田村の旧中心地である本町通りに面している個人宅をお手伝いすることになりました。現場に着くと、家主の外崎さんが既に作業を始めていました。外崎さんから作業内容の詳細を相談して、側溝の泥上げを開始しました。今回の班では、男性は市民参加者と私のみで、学生参加者がなく、泥上げをするには少し平均年齢の高い編成になってしまいました。その分、ベテランの知恵で、時間配分、体力配分を考え、少し休みの多い現場となっていました。この日は気温も高く、日頃鍛えているつもりの私にとっても作業が少しきつかったので、丁度いい時間配分でした。

お昼休みを利用して、お手紙をくださった工藤さんに感謝の気持ちを込めて、弘大のりんごチップスを渡しに仮設住宅に向かいました。この日は土曜日で車が多く止まっていて、仮設住宅に多くの人がいるにも関わらず、外に出て話したりする人が少なく、活気のないことに少し不安を感じました。

工藤さんのお宅に行くと、手紙を書いて下さった奥さまが不在で、ご主人が対応してくださいました。娘さんが本学の教育学部を卒業して、現在東京でお勤めになっていることで、弘前は工藤さんにとっても第二の故郷のようなところで、弘前大学と弘前の市民の皆さんがボランティアで汗を流してくれていることが大変嬉しく、何とか気持ちを伝えたくて、お手紙を書いて下さったようです。奥様によろしくお伝え下さいと言って、帰ってきました。

帰る途中に、チーム北リアスの現地事務所を見に行きました。仮設住宅がある野田中学校から少し離れた、水田が広がる、のどかな場所で、とても素敵な、絵画に出るような農家でした。事務所と倉庫の前には小さな畑があり、レタスやキャベツなど美味しそうな野菜がいっぱいでした。夏の合宿でバーベキューなどをするには絶好の場所でした。いつか学生諸君とボランティアの汗を流した後、冷たい井戸水で水浴びして、焼き肉を畑の野菜で包んで食べたいなと思いました。



工藤さんご夫妻と一緒に



貫牛さんのお婆さまと一緒に

そんなおしゃべりを家主の貫牛さんのお婆あさんとして、美味しいおにぎりを作ると約束していただいたところに市民参加者の阿保さんから電話が来て、手紙を書いてくれた工藤さんの奥さまが作業現場にいらっしゃっていると聞きました。おしゃべりを切り上げ急いで作業現場に戻ると、そこでは、工藤さんを囲んで大きな輪になっていろいろとお話をうかがっていました。工藤さんは、一人娘が大変お世話になった弘前大学からボランティアに来てくれていると知って、いてもたってもいられなくて手紙を書いたとおっしゃっていました。涙涙の出会いでした。

貴重な出会いの後、また午後からの作業に戻りました。側溝の泥上げは、私が留守の間、市民の皆さんが頑張ってくださって、7割方終わっていました。休んだ分を挽回するため、側溝に降りてリズムよくスコップを動かしました。2時半過ぎには概ね、作業が終了していたので、みんなで長めの休憩を取ることになりました。

その際、家主の外崎さんから、差し入れのコーヒーをいただきながら、いろいろお話を伺いました。外崎さんは本町地区の自治会長さんで、役場から聞いた今後の復興プランの概要を聞かせてくれました。その内容は、瓦礫を利用して、高さ10メートル位の防波堤を再建して、三陸鉄道は現在の位置から少し役場よりのところに再建するとのことでした。少しでも早く元の野田の姿に戻りたいという力強いお言葉を伺い、我々が一つ一つ片付けを手伝った野田村が元の姿に戻ることを思い描くと胸が熱くなりました。

作業終了後、野田村唯一の甘味所「まるきん大沢菓子店」が営業を再開したので、みんなで寄りました。野田のべこ（牛）をイメージして作った「撫でべこ」というお菓子がお勧めです。ソフトクリームもとても美味しかったです。ソフトをなめながら温かい気分でバスに戻ると、お手紙をくださった工藤さんから、「撫でべこ」の差し入れがありました。また、この日私たちの隣で作業していた桜庭さんからも大量のお菓子の差し入れがありました。本当にありがたいことです。皆が心豊かになって、野田から元気もお菓子もいっぱいいただいた一日でした。

(担当 李永俊)